

コスタリカ内政・外交（2016年1月～3月）

【要旨】

内政

- 1月にはソリス政権の主要公約の一つであるインフラ事業進展の責任者であった、セグニーニ公共事業・交通大臣が辞任。更に、3月にはモラレス労働・社会保障大臣が辞任。2014年5月にスタートしたソリス政権において辞任した閣僚は9人となった（閣僚は全22名）。
- 2月7日、地方統一選挙が行われ、国民解放党（PLN）が、81市中41市で市長ポストを獲得し、勝利宣言を行った。ただし、PLNは前回比12ポスト減であり、地方政党の躍進が目立った。
- 首都サンホセ市の市長選挙では、元PLN大統領候補であるジョニー・アラヤ氏が独自政党から出馬し、勝利。

外交

- 昨年より当地に滞留していたキューバ人移民を、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコの協力により米国国境まで移送することに成功。しかし、中米地域に流入するキューバ人移民、アフリカ系移民は依然増え続けており、問題の根本的な解決の見通しは立っていない。
- 2月15日及び26日、グリアOECD事務総長がコスタリカを訪問。同事務総長とソリス大統領はOECD加盟の重要性と、財政赤字削減及び公的債務安定化の緊急性について強調。
- 3月7日から15日にかけて、ゴンサレス外相はアジア地域との関係強化のため、ブルネイ、シンガポール、マレーシアを訪問。
- 3月8日、エクアドル国会がコスタリカとの間の領海線が明記されている、両国間の領海画定協定を批准。

I. 内政

1 公共事業・交通大臣の交代

(1) 1月13日、セグニーニ公共事業・交通大臣が辞任を発表した。同大臣は2014年5月にソリス政権が発足して以降、約20ヶ月間にわたって大臣職を務めたが、国道32号線の拡幅工事、同国道とモイン港間のアクセス道路建設、サン・カルロスへの新規道路建設、サンホセ市北部の環状道路建設、サンホセ・サンフアン間幹線道路建設、公共事業・交通省（MOPT）の新しい庁舎建設等、多くのプロジェクトを未着手もしくは実施中のまま職を辞することとなった。

(2) 2月2日、ソリス大統領はセグニーニ公共事業・交通大臣の後任として、カルロス・ビジャルタ・ビジェガス建築協会会長を任命した。ビジャルタ新大臣は、建築協会会長の他、技術、行政管理、プロジェクト管理等の分野での職歴が長く、公共事業・交通省(MOPT)、国家道路審議会(CONAVI)、民間企業での豊かな経験を有する人物である。

2 統一地方選挙の実施

2月7日、当国で統一地方選挙が平穏裏に実施された。選挙結果の概要は以下のとおり。

(1) 市長選挙(81市)の政党別当選結果(2010年前回選挙時→今次結果)

国民解放党(PLN): 59市→48市(マイナス12)

キリスト教社会統一党(PUSC): 9市→14市(プラス5)

市民行動党(PAC): 9市→6市(マイナス3)

排除なき参画党(PASE): 2市→2市(変動なし)

広域戦線(FA): 0→1市(プラス1)

自由運動党(ML): 9市→0(マイナス9)

その他: 3市→10市(プラス8)

(2) 注目を集めていた首都サンホセ市では、ジョニー・アラヤ元PLN大統領候補が勝利。同氏は、2014年大統領選挙前まで、20年間市長職を務めていた人物であるが、2014年大統領選挙における決選投票からの撤退に関し、PLN内で党内倫理規定違反に問われ、同党の公認候補となる道が絶たれたため、独自政党(Alianza por San Jose)から出馬した。

(3) サンホセ市、エスカス市をはじめ、都市部で地方政党が躍進した。国会に議席を持つ政党のうち、3党(ML, PRC, 国家復興党)が市長職を獲得出来なかった。PLNは市長職を減らしたものの、地方での影響力を堅持し、市長数第一党の座を死守。フィグーレスPLN党首が勝利宣言を行った。PACとFAは6市長ポストについて同盟を結んでいたが、勝利したのは1ポスト(Montes de Oca)のみ。なお、棄権率は59%と過去4年間で最も低い値を記録した(2010年の前回選挙時の棄権率は64.8%)。

3 労働・社会保障大臣の辞任

3月15日、モラレス労働・社会保障大臣は、自身が2015年3月に発表した、親族を利するための大臣職の利用を禁止した省内規範に反して姪を大臣室付の受付として採用したことにつき責任をとる形で辞任を発表した(4月5日、カルロス・アルバラド前人間開発・社会参加大臣が新労働・社会保障大臣に就任。)

II 外交

1 キューバ人移民問題

(1) 1月12日、2015年12月28日にグアテマラの事務レベル会合で合意された

内容に基づき、コスタリカに滞留するキューバ人移民の試験的移送が実施された。コスタリカを出発した180名のキューバ人移民は、コスタリカからエルサルバドルまで空路で向かい、その後陸路でメキシコ国境に向かうルートを使用した。

(2) 1月20日、試験的移送の成功を受け、コスタリカ、グアテマラ、エルサルバドル、メキシコ、ホンジュラス、パナマ、ベリーズ、IOMの代表者は、2月4日以降、同ルートによる週2回の継続的移送を実施することを発表した。

(3) 3月15日、コスタリカ政府は、2015年11月以降、国内で滞留していたキューバ人移民4,817名を、無事に国外へ移送し終えたことを発表した。ソリス大統領は、人道的危機解決に向けた、周辺国の協力に対する感謝を述べた。一方、移民局の推計によると、今回の移送オペレーションにおいて、コスタリカから空路で出国したキューバ人以外に、人身移送業者等を利用して独自に出国したキューバ人移民も3,000名近くいたとされている。

(4) コスタリカは、2015年12月に特別通過ビザの発給を停止しており、これ以上の移民の国内流入を阻止する構えであるが、中米ルートにより米国を目指す移民の問題の根本的な解決は図られておらず、中米通過を希望するキューバ人移民の数は減少していない。さらに、アフリカからの移民が増加しており、コスタリカへの入国を求める移民との間で、パナマとの国境における緊張が高まっている。米国を目指すキューバ人移民及びアフリカ系移民の中米地域への流入は続いており、根本的な問題には時間がかかる見込みとなっている。

2 ソリス大統領の外遊

(1) グアテマラ大統領就任式への出席（SICA改革に関する協議）

ア ソリス大統領は、2月18日から20日にかけて、モラレス・グアテマラ大統領の就任式出席のため、グアテマラを訪問し、同大統領とSICA改革及びキューバ人移民問題について協議した。コスタリカ政府は、キューバ人移民問題に関し地域各国から協力が得られなかったことをきっかけに、昨年12月18日、SICAの政治的協議(Mesa Politica)から脱退することを決定し、SICAが透明性と実効性するための改革を断行しない限り政治的協議に戻らないとしている。

イ ソリス大統領は、コスタリカは、SICAを拒絶しているのではなく、改革を求めていると述べ、SICA事務局や機構の非効率性、資金の用途や人材登用の偏りを指摘し、財政の透明性、アカウントビリティ、監査メカニズムを備えた、自ら資金調達ができる構造へのSICA改革を訴えた。

(2) CELAC首脳会合

1月27日、エクアドルで開催された第4回CELAC首脳会議にソリス大統領が出席した。ソリス大統領は、第4回CELAC首脳会議は、中南米・カリブの国々にとって、

公平で、平等で、強固な社会を作るため、また、他の地域、国家間メカニズム等との協議のための課題を具体化する上で良い機会となる、と述べた。コスタリカは、CELAC 議直国カルテットの一員として、貧困対策、教育・科学技術・イノベーション、環境・気候変動問題、インフラ整備、開発のための資金を重要テーマとして推進した。また、女性の社会・経済的権利へのアクセスを強化するための環境を整えることを訴えた。同会合において、ソリス大統領は、コレア・アクアドル大統領、バチェレ・チリ大統領、ペニャ・ニエト・メキシコ大統領との二国間会談を行った。

(3) グアテマラ公式訪問

ア 3月18日から20日にかけて、ソリス大統領はゴンサレス外相、モラ貿易大臣、ペニャス大統領夫人らを伴いグアテマラを公式訪問した。18日、ソリス大統領はモラレス大統領との二国間会談、グアテマラ国会における演説、サン・マルコス大学での中米統合に関する講演等を行った。二国間首脳会談では、地域統合強化の必要性、緊急を要するSICAの改革計画のほか、犯罪組織、キューバ人移民問題の人的解決、コスタリカからの輸出拡大に向けた機会創出など、貿易問題についても協議した。

イ また、投資及び貿易促進に向け、コスタリカ貿易省、貿易振興機構及び今次訪問に同行したコスタリカ企業は、グアテマラ企業との会合を行った。コスタリカからグアテマラへの輸出は2010年から2015年にかけて382百万ドルから540百万ドルに増加している。

3 ゴンサレス外相の外遊

ゴンサレス外相は投資、通商、教育や文化面での交流促進を図るため、3月7日から15日にかけて、ブルネイ、シンガポール、マレーシアのアジア3カ国を訪問した。

(1) ブルネイ訪問

7日、ゴンサレス外務大臣は外遊先のブルネイにおいて、エネルギー産業大臣との会談、同国の経済開発会議や投資庁の関係者との実務者協議、ブルネイ大学副学長との今後の学術交流拡大に関する協議を行った。8日、ゴンサレス外務大臣はブルネイ王宮においてハサナル・ボルキア国王と会談し、二国間関係強化、7日に署名が交わされた協力枠組み協定や政治的協議に関する覚書の活用、地域や国際関係事項等についての意見交換を実施した。さらに、ブルネイの教育大臣との協議、貿易次官とのワーキング・ディナーを行った。

(2) シンガポール訪問

ア 10日、ゴンサレス外相はフンキャン通商産業相との会談を行った。両国の間では2013年から自由貿易協定が発効しており、両大臣は、両国の経済関係を強化することは、両国間の政治関係の発展や、成長著しいアジア・太平洋地域における両国のプレゼンス拡大を図る基盤となるという認識で一致した。また、APECやASEAN加盟国からの大使や大使館代表との意見交換会や企業関係者との会合にも参加した。

イ バラククリシュナン外相との外相会談では、今後の両国間の観光や貿易の強化を視野に入れたオープン・スカイ協定に署名した。また、ラテンアメリカとアジア・太平洋地域の関係や、気象変動対策に関する最近の国際的合意等、二国間、地域間、そして世界の各レベルでの共通の関心事項について話し合われた。

ウ 11日には、ゴンサレス外相はAPEC事務局本部において、ボラードAPEC事務局長と会談し、APECの構想や優先事項に関する意見交換を行った。さらに、太平洋経済会議(PECC)のペドロサ事務局長を訪問した。

(3) マレーシア訪問

ア 15日、ゴンサレス外相は、ムスタファ貿易産業相と会談し、マレーシアとコスタリカ間の投資機会を模索し、政治及び経済関係の強化のための新たな分野の開拓について協議した。また、同日、国立マレーシア大学においてスタリカの外交政策と平和的紛争解決の経験に関する講演を行った。

イ アマン外相との外相会談において、両外相は、両国が政治、貿易・投資、協力等の分野において、より一層ダイナミックで、かつ未来志向のアジェンダを持てるように、これまで以上に戦略的かつ効果的な連携を目指し、決意を持って臨んでいく準備が整っていることを確認した。経済関係促進に向け、両国間の航空協定締結の可能性についても協議された。また、両外相は、恒久的な議題を提案として、東南アジア諸国連合(ASEAN)、太平洋経済会議(PECC)、東アジア・ラテンアメリカ協力フォーラム(FEALAC)の重要性を確認した。

4 要人のコスタリカ訪問

(1) 天野 IAEA事務局長のコスタリカ訪問

ア 1月27日、コスタリカを訪問し、IAEAからの資金及び技術援助を受けている、国内で唯一の原子力研究機関である国立コスタリカ大学原子力研究所の附属施設の開所式に参加した。また、同日午後には、国連平和大学において「IAEAによる平和と開発への貢献」と題された講演を実施した。28日にはファジャス副大統領はじめジェンキンス科学技術通信大臣、国立大学の研究者らが出席する会合への参加及び国立コスタリカ工科大学のガンマ線研究所における、ハイテク施設の開所式に出席した。

イ IAEAの任務は、原子力の安全利用と環境保護に関する基準の確立と、技術協力を通じての加盟国への援助、原子力に関する科学的情報の共有を促進させることである。ジェンキンス科学技術通信大臣は、天野事務局長の訪問に際し、当国外務省及び科学技術通信省は、原子力の平和利用という文脈における協力体制の管理や、多様なプログラムの実施に関し、IAEAと引き続き協力していくことを確認したと述べた。また、同大臣は、保健・農業・環境などの多岐に渡る分野での新たな能力の有効利用を目指した、包括的

法による科学的知識の促進と科学技術の発展を目指す述べた。

(2) グリアOECD事務総長のコスタリカ訪問

ア 2月15日及び16日、グリアOECD事務総長が、コスタリカ経済概観（エコノミック・アウトルック）の発表のためコスタリカを訪問した。OECDによるコスタリカ経済概観では、財政健全化の必要性、ドル依存経済からの脱却、格差の解消、公務員数と賃金の増加の抑制、財政の硬直化の解消（義務的経費の削減と政策的予算の増加）、正規契約外の労働と社会保障費に関する企業の高負担、労働市場への女性の進出、教育の改善（教育へ多額の公的投資が行われているにもかかわらず、結果が出ていない現状の改善）、民間と公的セクターの格差の解消、生産性の向上等について指摘がなされた。グリア事務総長とソリス大統領は、コスタリカ経済概観の公式発表の場で、財政赤字の削減と公的債務安定化の緊急性について強調した。

イ 本訪問中、グリア事務総長はソリス大統領との会談を行ったほか、閣僚や国会議員、民間企業や市民団体の代表者らと会合を持った。OECD加盟に向けたコスタリカの取組に関し、グリア事務総長は、主要関係者による共通の合意が必要であるとした上で、政府が加盟に向け最初に行わなくてはならないことは、労働組合、企業、市民団体から、本加盟プロセスがコスタリカの発展を促進させるための土台であるということへの理解を取り付けることであると述べた。また、現在政府が進めている財政改革案は不十分であり、財政赤字を対GDP比3%以下に抑えることが必要であると指摘している。

(3) アラブ首長国連邦外相のコスタリカ訪問

ア 3月12日、アラブ首長国連邦の外相として初めて、アブダラー・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン殿下がコスタリカを公式訪問した。コスタリカとアラブ首長国連邦は、2010年に外交関係を樹立している。

イ 同外相はソリス大統領と会談を行い、今後の協力進展について協議した。また、ナヒヤーン外相は、アラブ首長国連邦はコスタリカとの関係を新しい段階に進めることを願っており、今回署名された二国間協力に関する数々の合意は、両国の絆を強めるための基礎となるだろうと述べた。

ウ ゴンサレス外相との二国間外相会談では、両外相はアラブ首長国連邦からコスタリカへの観光客呼び込みに資する、航空協定に署名した。また、投資の促進と貿易プロセスの開始、政治協議の創設、協力に関しても合意した。

5 その他

(1) FLACSO次期事務局長候補の発表

3月24日、コスタリカ外務省は、6月3日に実施される、ラテンアメリカ社会科学研究所（FLACSO）の次期事務局長（任期は2016年から2020年）に当国から立候補

している Josette Altmann Borbon 氏を外交団及びメディアに紹介するイベントを開催した。ゴンサレス外相は、同氏は F L A C S O 事務局で国際協力担当として勤務した経験を持つほか、女性、若者、先住民への支援のためのプロジェクト等に参加しており、豊かな国際協力の経験を持つ人物であり、中南米地域の発展に向け、さらなる改革と開かれた議論が求められている F L A C S O の事務局長として相応しいと述べた。また、同氏が当選した場合には、F L A C S O 初の女性事務局長が誕生するとしてその意義を強調した。

(2) 国連宇宙関係ワークショップの開催

コスタリカは、3月7日から11日にかけてサンホセ市において、コスタリカ政府の協力の下、国連宇宙局 (UNOOSA) と国際宇宙アカデミー (IAA) の共催により、「人間の側面(Human dimensions)に関する宇宙技術ワークショップ」が開催された(国連宇宙局から、土井宇宙飛行士が参加。)。参加者は、宇宙空間における人間の活動について意見交換を行い、より多くの発展途上国が宇宙探索に関する活動の参加を得て、国際協力を促進させるための方法について議論を行った。ジェンキンス科学技術通信大臣は、このワークショップは、コスタリカが今後大きな発展の可能性を持つ宇宙産業分野で、地域の拠点となるために極めて大きな意味を持つと述べた。

(3) エクアドルとの領海画定協定

3月8日、エクアドル国会がコスタリカとの間の領海を画定するための両国間協定への批准を行ったことに対し、コスタリカ政府は歓迎の意を表明した。同協定には太平洋沖のココ島やガラパゴス諸島周辺海域における両国の明確な境界線が記されているだけでなく、大陸棚の200海里以遠への拡大についての両国の提案など、海洋に関する両国の関心事項における広範囲の協力を実現していくための基本事項が盛り込まれており、両国は今後、同協定を通じて、国連海洋法の規定事項を全面的に適用することが可能になる。ゴンサレス外相は、今回の批准が、両国の政治、経済、外交、相互協力関係を強化させる重要な進展であると述べた。